

区の補助計画等のまとめ	1 安全・安心の街づくり分野の政策課題	2 課題解決に向けた施策の方向性
	<p>(1)【拠点整備】ハード面の都市整備を中心とした街づくりから、地域コミュニティなどのソフト面も融和した街づくりに取り組む必要がある。</p> <p>(2)【居住環境】高齢化の進行に伴い、今後増加が見込まれる住宅確保要配慮者に対して、区営住宅等ハード面での拡充が困難な中で、家賃助成をはじめとしたソフト面での施策を拡充する必要がある。</p> <p>(3)【居住環境】民間の共同住宅においても、建物の老朽化と居住者の高齢化という「二つの古い」が進行する中、管理不全に陥らないための支援を図る必要がある。</p> <p>(4)【居住環境】空家等の適正管理、空家の発生予防や利活用に向けた取組を進めていく必要がある。</p> <p>(5)【防災まちづくり】東京都の防災都市づくり推進計画における重点整備地域での不燃化の目標を達成するとともに、木造住宅密集地域の解消や地域危険度の改善を図る必要がある。</p> <p>(6)【防災まちづくり】新しい改修方法の啓発や改修・除却助成制度を拡充して、耐震化促進に取り組む必要がある。</p> <p>(7)【都市型水害】近年の異常気象に伴う時間50ミリを超える豪雨へ対応する必要がある。</p> <p>(8)【公園】依然として南部地区や西部地区をはじめとする公園不足地域があり、公園整備に取り組むとともに、老朽化した公園施設の長寿命化対策に取り組む必要がある。</p> <p>(9)【公園】公園利用のあり方や、少子高齢化の進行、子育て支援など公園に対するニーズの変化に対応する必要がある。</p> <p>(10)【公園】公園等の公共空間を活用するため、PFI等民間活力を活用し、地域の魅力向上や活性化を図ることが必要である。</p>	<p>【5年後】</p> <p>(1)【拠点整備】「都市計画マスタープラン」を改定し、社会状況の変化に伴い生じた新たな課題に対応した街づくりを進める。</p> <p>(2)【居住環境】空家等の適正管理を促し、継続して空家等を発生させないための取組を行う。</p> <p>(3)【防災まちづくり】区内の耐震化率を95%以上とし、防災都市づくり推進計画における重点整備地域の不燃領域率70%を達成する。</p> <p>(4)【都市型水害】更なる治水対策について、関係区と連携して東京都へ要望するとともに、今後も引き続き流域対策として雨水流出抑制施設の整備を推進する。</p> <p>(5)【公園】公募設置管理制度など新たな手法を活用した公園整備を検討するとともに、民間活力の活用や住民参加による活動により多様化するニーズに対応した公園づくりを進める。</p> <p>(6)【公園】老朽化が進む公園等施設を「公園施設長寿命化計画」に基づき、安全対策やコスト削減対策等の施設管理の強化を図る。</p> <p>【10年後】</p> <p>(1)【拠点整備】うるおいと安全・安心が両立し、持続可能な街づくりを進めていく。</p> <p>(2)【拠点整備】自由が丘駅周辺地区において都市計画道路補助127号線の整備が完了する。中目黒駅周辺地区において、エリアマネジメントを導入した街づくりを推進する。</p> <p>(3)【居住環境】公的住宅・民間住宅ともに、既存の住宅を適正に管理することにより長期間活用し、空家・空き室を含めた既存の住宅ストックを資産として活用していくための取組を継続していく。</p> <p>(4)【居住環境】空家を発生させないための取組を継続的に実施するとともに、空家の利活用に取り組む。</p> <p>(5)【防災まちづくり】区内の耐震性が不十分な住宅を概ね解消し、「防災都市づくり推進計画」における重点整備地域以外の地域においても不燃領域率70%を達成する。</p> <p>(6)【防災まちづくり】木造住宅密集地域において、地籍調査を概ね完了する。当該地域の災害時における復旧が早急に整備できるようにしていく。</p>



審議会まとめ	3 審議会での主な意見	
	<p>○ 都市づくりでは、都市構造や土地利用、次に交通環境、安全安心という形でまとめる方が良く、内容が重複している部分もあるので、政策分野のタイトルも含めて整理する必要がある。長期計画は理念をうたうものなので、その点を考慮して表現を工夫すべきである。</p> <p>○ 地球温暖化による風水害を懸念しており、樹木が多いのは良いが倒木が心配である。水害だけでなく風害に対する対策も必要ではないか。</p> <p>○ 防災まちづくりについて、5年後に区内の耐震化率を95%以上としているが、可能な限り早める必要があるのではないか。</p> <p>○ 公園整備について、今後の区有施設の統廃合や道路整備の機会などに小規模でも整備してことや、将来的に周辺区との共同設置など様々な手法による整備を検討してはどうか。</p> <p>○ 既存の住宅ストックを資産として活用することについて、現状でも高齢者の住宅確保が困難なため、課題解決を早めるべきではないか。</p> <p>○ 区営住宅等ハード面の拡充について、公営住宅など公的な住宅をハード面から保証していくのは今後も大きな課題である。</p> <p>○ 新たな政策課題に「住宅確保要支援者に対するソフト面での対策」や「民間共同住宅が管理不全に陥らないための支援」が挙げられているのに、課題解決の方向性にはその点での記載がないが、どう考えているのか。</p>	
	4 安全・安心の街づくり分野の概ね20年後の区の将来像やあるべき姿【キーワード】	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建築物の不燃化・耐震化の促進による防災まちづくりの推進 ○ 狭あい道路の拡幅整備 ○ 無電柱化の推進 ○ 都市型水害に対応できる総合治水対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域特性に応じた生活拠点の整備 ○ 快適な居住環境の整備 ○ 住宅確保要支援者の住まいの確保 ○ ニーズに合った公園等の整備と長寿命化の推進